

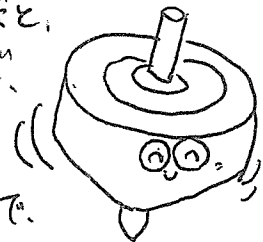
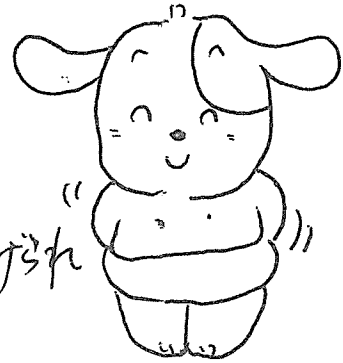
Iがっのくもの子の会だより

<4.30.1.5>

あけましておめでとうございます。

今年もよろしくお願ひ致します。

子育て交流保育くもの子の会は、平成3年に立ち上げられ平成7年より、私が主に関わり、運営をしてきています。この会の名前も、当時、若年性アトピーハイマ一病を発症していた母が、「くもの子」とパッと書いてつけられた名前だ。前代表であり現在の代表の栗原さんからきていますが、「くもの子、て、どのくも、ですか？」と何度か、お母の方に聞かれたことがあります。空のくも、ごまのくも、蜘蛛の子が、卵から産まれてくるあの様の中、母の深い思いが、あつたのだろうな〜と、思います。その思いは、今は亡き母であり、ほんとうのところはわかりませんが、でも、私は、蜘蛛の子が、ずいぶん、あちこちに散らばり生まれ出て、自分の思う方向に歩いて、巣立っていくように、この会も、たっさんの親子さんとの出会いあり、リズムや、わらべうたあそびや、子育て観見話などで、交流あり、それから、またあちこちには、たっさん、子育て、保育の楽しさや重要性、大切さなども蜘蛛の糸のようにのびてつながり、と、いろいろな意味での会になれたらなあという思いで、私なりに、「くもの子の会」という名前を、決めています。



今現在参加者は、いら、せらなくなりました。以前は、20家族以上あった。イベントなども80人以上とか、子育ての話で朝まで飲み明かしたとかという時間があった。と、続いていた。時代の変化を感じる。今参加者が、ほとんどおられなくなりまして。また、おこにこの会をやめようという気にはなれないですね。で、今年も、新たな出会いと参加者の方を待ちながら、うちの園の子ども達と共に、活動を続けていきたいと思っております。いつもこのおたよりを読んでいただき、くもの子を応援していただき、ありがとうございます。これからもよろしくお願ひ致します。

子どもは紫の露草 (大木克行) より

- ◎ 幼児期は ヒトとして生まれた子どもたちが人間として育つための心と体の根、こを育てる時期です
- ◎ 子どもは自分の苦しみを直接語りはしませんが、苦しみが深い時には、必ずなんらかのシグナルを発信しているもので、早い時期にそのシグナルをとらえなければ、心の傷が深くなるように、より早く適切な対応ができれば、いいですね
- ◎ 人に愛されたことがなければ、人を愛することはできません。人を愛する力の力は、愛を感じる経験によって育まれるものです